



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の育成を行います

トモシンセシス(3Dマンモグラフィ)を導入しています

当院では、乳がん検診の最先端機器であるトモシンセシスを導入しています。

トモシンセシスとは Tomography (断層)と Synthesis (合成・統一) という単語を組み合わせた意味を持ち、乳腺内を断層で観察出来るように撮影をする撮影技術のことです。

従来のマンモグラフィ(2D)だけでは乳腺の構造や厚さによって、病変と乳腺組織が重なってしまい、どうしても判定困難になってしまうことがあります。特に、今問題になっているデンスプレストでは病変が正常乳腺に重なってしまう危険性が高くなります。デンスプレストとは乳腺実質の量と分布が高濃度・不均一高濃度の乳房のことを言います。我々日本人の乳房はこのデンスプレストの割合が高く、歳を重ねるごとに割合は低下していきますが、乳がん罹患率の高い40代では半数以上がこのデンスプレストにあたるというデータがあります。

トモシンセシス(3Dマンモグラフィ)は乳腺内を薄くスライスして観察できるため乳腺の重なりが少ない画像を得られ、高濃度の乳腺であっても従来の2Dのマンモグラフィで抽出困難であった腫瘍や乳腺の構築の乱れ等の検出

能が高いといった臨床的有用性が報告されています。大規模な調査によると、3Dのマンモグラフィを併用すると従来のマンモグラフィだけより乳がん検出率が27%上昇したというデータもあります。

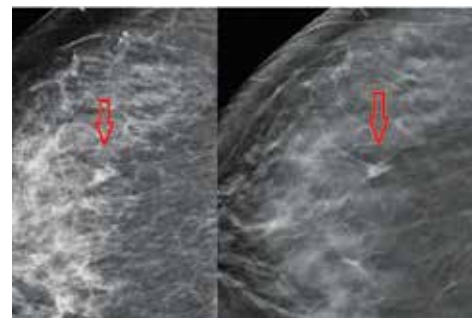
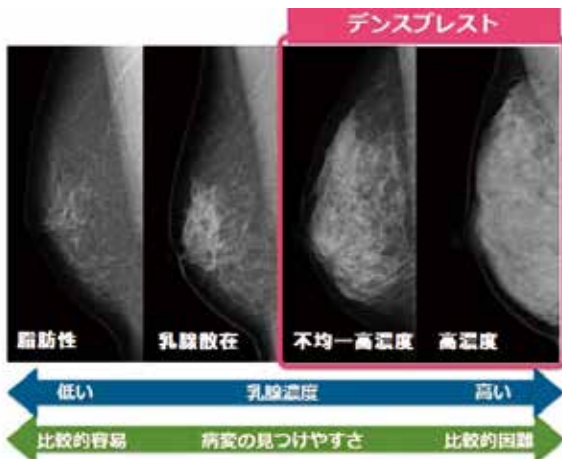
トモシンセシスの撮影方法は2Dのマンモグラフィの撮影後すぐ撮影角度を変えながら3Dの撮影を行います。従来のマンモグラフィにプラス10秒ほどで撮影は終了します。

この機器により、ますます乳がんの早期発見・早期治療・医療の質の向上に貢献していきたいと思っています。



画像診断センター 赤池 愛美

トモシンセシスの撮影は図のように機械の撮影角度を変えながら撮影します。



2D画像(左)では小さな病変で境界の判定不能。
3D画像(右)では病変が認識可能。

集中治療・人工呼吸器セミナー開催

9月1日に、熊本地域医療研究会後援でメイヨークリニック呼吸器・集中治療部門のDr. Kannan Ramarによる集中治療・人工呼吸器セミナーを開催しました。当院の初期研修医や専攻医（総合診療専門研修専攻医と家庭医療専攻医）、当院臨床工学部、当院看護師が参加し、「Ventilator Waveforms : interpretation and analysis」の演題で参加型の講演を行いました。講演で人工呼吸器の波形解析など学んだ後に、当院研修医による症例提示を2例行い、実臨床を通して呼吸器管理を行い、症例検討

しました。すべて英語のセミナーになりますが、肺と呼吸の生理を通して波形解析や呼吸不全の解釈を行い、呼吸管理を学びました。難解な英語ではなく、分かりやすい英語で、適宜通訳をはさみながらの進行で、昼食や懇親会での会話も弾み、大変刺激がありました。懇親会では通訳された地域医療・総合診療実践寄附講座の先生の娘さん（4歳）も英語でDr. Kannan Ramarと会話する姿に勇気を得て、親交を深めることができました。

総合診療科 田浦 尚宏



Revolution CT スペクトラルイメージのご紹介

現代医療においてCT検査は欠かせない検査の一つとなっており、当院ではGE社製の最新型256列CT装置である「Revolution CT」を導入しています。従来の当院での64列CT装置と比べ、256列と1回転の撮影範囲は40mmから4倍の160mmと格段に高速に撮影でき、息を止めるのが困難な場合や、じっとしていられない小児の撮影にも対応することが可能となります。しかも低線量で低被ばくな検査ができます。

そしてバージョンアップを行い、より高機能なCTとなっています。その一つがデュアルエネルギーCTです。

デュアルエネルギーCTとは、管電圧の異なる2種類のX線でCTを撮影する技術です。

このデュアルエネルギーで何ができるかというと

①物質弁別画像（物質毎の情報）

通常のCTではわからない物質の種類・情報が得られ高い確信度の診断、治療方針/効果判定が可能となります。（図1 肺への造影剤の分布をカラーで表示しています。○で示す肺の黒く写っているところは血流が低下している部分です。）

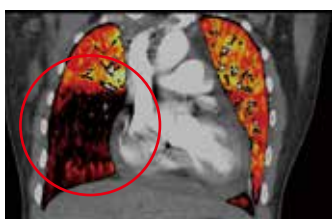


図1 物質弁別画像

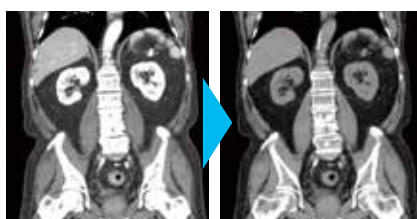


図2 仮想単純画像

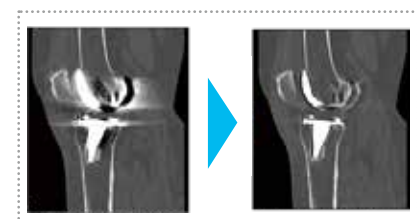


図3 金属の影響を少なくした画像

②仮想単純CT画像

通常単純撮影を行いその後、造影剤を注入し造影撮影を行うのですが、造影撮影のみで仮想の単純撮影を表示することができ、無駄な撮影をせず被ばく低減、検査時間の短縮が可能です。（図2左図の造影剤を入れた撮影のみで右図の造影剤を入れていない画像が表示可能。）

③仮想単色X線画像

造影剤コントラストを強調することができます。つまり造影剤を減量して検査が可能で今まで腎機能が基準値より低く造影検査を行うことが出来なかった方も造影剤を減量することで可能となることがあります。

・CTでは金属が体内に入っているとその場所が金属の影響により見えなくなったり見えづらくなっていたのが、その金属の影響を少なくすることができ、CT検査できちんとした評価の実施が可能です。（図3金属の影響で見えなかった所が見える。）

従来のCTの弱点とされていたことが改善し、より高精度の検査が可能になっています。

画像診断センター 恒松 明彦

二次トリアージ研修実施!!

9月1日、当院看護師の外傷コースインストラクター及びプロバイダー6名、人吉下球磨消防組合救急救命士の外傷コースインストラクター2名の協力を得て、二次トリアージ研修会を開始しました。受講対象者は、当院の看護師12名で、災害医療・致死的外傷・二次トリアージについての講義を行いました。その後、傷病者の第一印象の把握の仕方、外貌学的評価の方法の実技を通して学び、最後に赤エリアを想定したシミュレーションを実施しました。9名の傷病者役が次々と運ばれてくる中でそれぞれの病態を迅速に把握し、治療の優先順位を決めながら活動するという内容です。受講対象者からは、「研修に参加で

きてよかった」という声が聞け、やりがいを感じました。人吉には「人吉盆地南縁断層」という活断層があり、いつ大地震が発生するか分かりません。今回のような研修で災害医療に強くなり、的確に二次トリアージができる看護師が増えることを期待しています。



手術室看護師 赤池 和則

.....受講者の感想.....

今回の二次トリアージの研修会でエリアメンバーとエリア本部の役割を経験しました。エリアからの報告が簡潔明瞭であれば、本部機能もスムーズに行えました。

しかし、多数傷病者対応の訓練という状況では、エリアメンバーも焦り、報告がうまくいかない事も多々ありました。そん

な時こそエリア本部を任せる中堅以上の看護師はバラバラの情報分析し、まとめる力が必要だと感じました。災害はいつ起きるか分からないため、一看護師として、大事な家族や大事な人を守るためにも、日頃から意識しながら実践し、アセスメント能力の向上に努めようと思います。

5階病棟 税所 ひとみ

10月はピンクリボン月間です!

8月24日ひまわり会(乳がん患者会)を開催いたしました。

今回は嘉村薬剤師よりホルモン療法についての講義を、続いて地下乳癌看護認定看護師より日常生活の工夫についての講義をしてもらいました。

講義の中では耳慣れない医学用語も出てくるため、患者さんには難しい箇所もあったかもしれませんが、参加された皆さんは非常に真剣に講義を聞かれ、質疑応答の時間には、自身の治療内容や、身体のことと照らしあわせながら、熱心に質問をされていました。

同じ乳癌でも患者さんの年齢や、癌の分類で治療方法や使用



する薬剤や量は異なります。「お隣の患者さんはホルモン療法をしていないのに、ホルモン療法をしている自分は状態が悪いの?」といった疑問を抱かれた

り、インターネットに書いてある治療内容と自分の治療内容の違いに不安を覚えることもあるかもしれません。そんなときに正しい知識を得ることは不安を取り除き、前向きに治療に取り組む手助けとなります。

また、ホルモン療法でどんな副作用の出現が考えられるのかを予備知識として知っておくことは、副作用が出現したときの不安軽減に繋がり、早期に適切な対応がとれるようになります。

病気の治療に関しては、医師や看護師、薬剤師といった医療者に身をゆだねなければならない場面も多くありますが、患者さん自身が知識を身につけ、取り組まなければならないことも同じくらいあります。患者さんが知識を身につけ、取り組むべき事に取り組めるような機会をこれからも提供していきたいと思えます。

また、10月はピンクリボン月間です。少しずつ認知度も高まってきた入浴着のサンプルを院内に展示いたします。この機会に是非女性に一番多いと言われる乳癌に関心をもってください。

次のひまわり会は「術後の下着」をテーマに10月19日の開催予定です。

奮ってご参加ください。

医療福祉連携室 岡本 理恵

病院へのかしこい受診の仕方

H19年より当院は全患者予約制を導入しています。これは、より専門的な治療を必要とする患者さんや、重症の患者さんに早期に適切な医療を提供するためのシステムです。

一日のうちにおこなえる画像検査や血液検査などの検査、また一人の医師が診察できる人数には限りがあります。そのため、当院では皆様に、まずはお近くの医療機関をご受診いただき、かかりつけ医をお持ちいただくようお願いしております。

しかし最近では、お仕事や家庭の事が忙しく日中なかなか病院に来院できず、症状が悪化して休日や夜間の救急外来を受診をされる方も多くあります。

救急外来は急性期の疾患への対応や急を要する重症の患者さんへの対応をおこなっておりますので、急を要する重症の患者さんがおられた場合には、重症の患者さんが優先となりお待たせすることがあります。

また、救急外来には必ずしも症状にあった専門医がいると

は限りません。そのため、救急外来の受診後に、改めて症状にあった診療科を後日受診いただくよう説明することもあります。

急に具合が悪くなったなど救急な症状が出現した場合以外は、時間がない、忙しい方こそ、計画的に症状にあった診療科を受診していただくことが、病院へのかしこい受診の仕方であるといえます。

何科を受診してよいか分からない、引越したばかりでどこにどんな病院があるのか分からないなどございましたら、予約センターで可能な限りご案内いたしますので、まずはご連絡ください。

【予約センター】

T E L 0966-22-7878 (紹介状なし)

T E L 0966-22-1900 (紹介状有り)

平日 8:30-17:00

平成30年度「緩和ケア研修会」開催のご案内

1 要領改正と新開催指針

この度、平成29年12月1日付け健発1201第2号厚生労働省健康局長通知にて「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」が定められ、平成30年4月1日より適用されることとなりました。このことにより、がんその他の特定の疾病においても適切に緩和医療が提供され、医師以外の医療従事者についても育成すること等を目標に施策が講じられることとなりました。

これに伴い、新開催指針にて緩和ケア研修会にe-Learningが適用されることになりました。各拠点病院で開催される緩和ケアの集合研修を受ける為には、まず、e-Learningを受けておくことが必要になります。詳細は下記の通りです。

e-Learningにつきましては別紙をご参照ください。

- ※がん診療連携拠点病院に所属する「がん診療に携わる医師」は100%受講することが目標となります。
- ※「がん性疼痛緩和指導管理料」に関する施設基準に該当し、「がん治療認定医」申請の必須資格となる研修会です。
- ※すでに「緩和ケア研修会を修了されている方」は受講

の必要はありません。

2 研修会の対象者

がん等の診療に携わる県内外の医師等（その他医療従事者も含む）

3 受講方法

- (1) e-Learningの受講
e-Learningサイトよりアクセス
【厚生労働省 がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 e-Learning】
<https://peace.study.jp/pcontents/top/1/index.html>
 - (2) 集合研修の受講（e-Learning修了者のみ受講可）
e-Learning修了証書を持っている者が、各集合研修開催病院へ申込み受講する。
日程・開催病院は熊本県ホームページに掲載
【熊本県内のがん等診療に関する緩和ケアのお知らせ】
http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_23564.html?type=top
- ※人吉医療センターは平成31年1月19日（土）開催予定。2ヶ月程前から案内を開始する予定。

4 お問い合わせ

JCHO 人吉医療センターがん相談支援センター 南 秀明
(TEL: 0966-22-2191 FAX: 0966-22-7879)

ハワイ研修を終えて

私たち研修医1年目5名は、8月8日、9日に Sim Tiki Simulation Center で行われた研修に参加させて頂きました。

ハワイ研修は2日間、ハワイ大学にて行われ、参加者は自分たちも含め、合計20名ほどの日本人研修医でした。メインの内容は、脈、呼吸、瞳孔所見などとれるシミュレーション人形を使った実践的なもので、病院で起こりうるシチュエーションがシナリオとして用意されており、数名ごとの班に別れて実際の現場と同じように対応をしていく、といったものでした。1シナリオが終わるごとに、ここはこうした方が良かったんじゃないか、といったディスカッションを班のみんなで行い、次のシナリオに進むといった流れでした。

シミュレーションを行うことで、自分が実際に経験していないこともほぼ実際と同じように経験できるので、学んだことを現場で生かすやすく、とても勉強になりました。

その他にも、アメリカと日本の医療の違いや、アメリカで医師をしている日本人の話など、非常に興味深いお話もあり、とても有意義な研修でした。

空いた時間には、みんなでビーチに行ったり、ステーキを食べたり、酒を飲んだり、研修医同士の絆も深まり、実りある研修となりました。

最後になりますが、今回のハワイ研修に関わった皆様方、本当にありがとうございました。今回学んだことは、今後の医療現場でどんどん活かしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

臨床研修医 石内 聡一郎



地域医療研修 in 沖永良部

8月に沖永良部島の朝戸医院でJCHO 人吉医療センター臨床研修プログラム2年目の地域医療研修をしてきました。

沖永良部島は鹿児島本土と台湾の中間に位置しています。大河ドラマ「西郷どん」のロケ地で、西郷隆盛が配流された所です。産業は農業、畜産、花卉栽培であり、ジャガイモ、サトウキビ、肉牛、百合などを生産しています。海が綺麗でウミガメの産卵地です。

離島の地域医療の現場では、プライマリ・ケアを中心とした疾患の診断と治療、主に高齢患者の家族や社会的背景を考慮した全人的医療、チーム医療、さらに行政と連携した保健や福祉との関わりが求められています。医療資源が限られているが故に、総合診療ができる医師が必要とされています。

朝戸医院では総合診療を研修してきました。農作業中の外傷、糖尿病などの生活習慣病、末期肝不全のターミナルケアなど様々な症例を経験させてもらいました。最期まで島で過ごしたい島民も多く、気心のしれた信頼できる「かかりつけ医」に自分の身体全部を死ぬまで診て貰いたい、島民はそれを期待しているのではないかと肌で感じました。この経験を糧に良い医師になれるよう残りの研修も励んでまいります。

臨床研修医 木下 聡



特別臨床実習を終えて - 地域医療 -

私は大学の臨床実習（クリニカルクラークシップ）における地域医療実習として、人吉医療センターを選択し実習をさせていただきました。元々人吉には縁もあって幼い頃は何度も来たことがあったため、今回まとまった期間の実習でもう一度訪れる機会を楽しみに思っていました。

実習の内容としては、総合診療科や救急センターでの実習をはじめ、五木村診療所での実習、また訪問看護にも参加させていただきました。人吉からさらに車で40分ほどかかる場所に位置する五木村における実習では、自分も将来地域医療に貢献しなければならない人材の一人として、自分の将来の医師像についても考える契機となりました。訪問看護においても、自宅で生活をする患者様の医療に対するニーズに応えなければならない難しさ、また介護、福祉と上手く協力して地域連携を目指していく姿、そして患者様の生活空

大学での部活の先輩が研修医として勤務されていることがきっかけで、3週間の地域医療実習として、人吉医療センターを選択した私は、初めて訪れる病院に少し不安を抱いておりましたが、病院のスタッフの皆さんが親切に明るく接してくださり、のびのびと実習させていただきました。

総合診療科の先生方をはじめ、病院のスタッフだけでなく、患者さんやそのご家族とも今までになく密に接することができました。その中で、これまでの大学病院での実習では得られなかった学びがありました。一つは、医療従事者とその地域の住人の繋がりが、非常に濃いことです。五木村診療所や訪問看護実習においては、より強く感じました。疾患に対して適切な処置を行うだけでなく、心の繋がりが信頼関係がとても求められているように感じました。市内より高齢者の割合が多い地域という理由もあるか

間に入って様々な困難と一緒にあって取り組んでいくことで家庭を支援していくやりがい、などを感じ取ることができました。

今回の実習を通して何よりもまず感じたのは人と人の距離が近く、そして関わるとの人達も自分達に親切にしてくださったことです。院内での挨拶をはじめとして、全てのスタッフがコミュニケーションを円滑にされていますので、連携のとれた素晴らしい環境ができていますのだと思います。そしてそれは院内だけでなく、地域全体の雰囲気にも大きな影響を与えているのだと思いました。

実習内外でも様々な方々にお世話になり、3週間という期間があつという間に感じるほど充実した日々を過ごすことができました。お世話になりました全ての方々に深く感謝致します。

熊本大学医学部医学科5年 中嶋 誠也



もしれませんが、これは医療に携わる上でとても重要であると感じました。他には、問診やバイタル測定、時には胸骨圧迫やジギタルなど、様々な処置も経験させていただき、今後の実習のモチベーションも高まりました。

また、研修医の先生方が、私たち学生に親身に指導してくださり、楽しく実習をさせていただきました。夜には毎日のように、人吉の美味しい食事やお酒とともに、ありがたいお話をいただきました。実習だけでなく、多くの思い出ができました。

最後に、人吉医療センターのスタッフの方々、特に、多くの素晴らしい院外実習を経験させていただいた先生方に、心より感謝の意を申し上げます。

熊本大学医学部医学科5年 中嶋 凌

連携施設 探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して 地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。

今回は「多良木小規模多機能型居宅介護事業所 優光」さんです。

「多良木小規模多機能型居宅介護事業所 優光」 Vol.22

【施設特色および理念】

- 私達優光職員は
- ・地域の住民同士のつながりを深め、地域活動の強化に努めます。
 - ・みなさまに住み慣れた地域で、安心して自立した生活を営むための支援を目指します。
 - ・医療機関との連携を図り、一人ひとりに安心した最適な支援を提供します。

【対象者】 要支援1～要介護5の認定を受けた方

【サービスの内容】

通所介護 定員18名
短期入所 定員9名
訪問看護
居宅介護支援

【地域の皆様に一言】

「季節を感じ「ここ」で出会ったすべての人と笑顔と一緒にあゆみます。」を理念の下、住み慣れたところで家族・地域の方がいつでも会いに来てくれる憩いの場としての環境作りをしております。また、利用者に寄り添った支援を目指し職員一同頑張っています。

【お問い合わせ】

TEL 0966-42-8727 FAX 0966-42-8733
相談員 赤池 哲治

【訪問者からの一言】

訪問した際、広い廊下に置かれた2人掛けのソファに、利用者さんが仲良く腰掛けて笑顔で会話をされている姿をみてとても癒やされました。利用者さん同士がとても仲良くされており、アットホームな雰囲気を感じました。



人物紹介 - 中村末太郎さん

中村さんは以前、当院の施設課で働かれていました。退職後もソフトボール部の監督や病院フェスティバルで焼き芋コーナーの中心人物としてボランティアをして頂くなど、現役で活躍されています。現在は、人吉市のシニアソフトボール部に所属されており、現役でソフトボールをされています。今回、8月26日(日)に第一市民運動場にてシニアソフトボール大会が行われたため、試合観戦をしてきました。

当日は快晴で絶好のソフトボール日和でした。選手の皆さんは若い方で50代、最高齢は80歳と年齢関係なくたくさんの方がプレーされており、選手の皆さん年齢を感じさせない気迫あるプレーを沢山見ることができました。中村さんのピッチングも絶好調で、この日は2回試



合があったのですが、どちらの試合も勝利されました。

また、ゴルフもされ、76歳とは思えない体力をお持ちです。私も運動をしていつまでも元気に過ごせるように健康づくりを行っていききたいなと思います。

医療福祉連携室 小田 薫子

第二水曜日は300円ランチの日!



毎月一回、HMC職員にもお楽しみの日があります。それは、第二水曜日。

一般の方も利用可能なレストラン&カフェ、ピアンモールでは、毎月第二水曜日には破壊価格の300円でランチを提供されています。物価上昇が、庶民の懐を苦しめている昨今、非常に嬉しいランチです。

皆様も是非、ご利用ください。なお、昼食時は混み合いますのでご予約、精算を先に済ませておかれることをお勧め致します。



9月12日はチキン南蛮丼でした

新任紹介



池袋 雄太(協力型臨床研修医)

最終卒業校：熊本大学

趣味：サイクリング、水泳

生活信条：チャレンジし続ける

長所：粘り強さ

自分のコマーシャル：初期研修1年目は福岡徳洲会病院で研修を行い、2年目は大学病院内をローテートしています。1ヶ月という短い期間ではありますが、人吉医療センターで新しい経験ができることを期待しています。

休みの日は大体自転車に乗っています。人吉は自然が多く、史跡などもあり、サイクリングも楽しみにしています。



黒木 晋作(救急センター・看護師)

最終卒業校：鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校

趣味：ゴルフ(下手ですが…)、御朱印集め

好きな言葉：日々是好日

自分の性格：穏やかな性格

自分のコマーシャル：JCHO宮崎江南病院から転勤となりました。一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

9月の勉強会報告

9月1日(土)集中治療・人工呼吸器セミナー

「Ventilator Waveforms: interpretation and analysis」
メイヨークリニック 呼吸器・手中治療部門集中治療・内科・呼吸器科・睡眠医学専門医 Dr. Kannan Ramar

9月7日(金)大腸癌Expert Meeting in 人吉

「大腸癌治療 -役に立つ3つの最新情報-」
大分大学医学部 消化器・小児外科学講座 教授 猪股 雅史先生

9月19日(水)第101回人吉消化器カンファレンス

「がん検診で発見した0-II B病変について」
当院 消化器内科 西村 淳先生
「現在のPPI処方～当院の実情を踏まえて～」
服部胃腸科 村尾 哲哉先生

